

利他と流動性

Altruism and Fluidity

# REBORN ART FESTIVAL 2021-22 SUMMER

リボーンアート・フェスティバル  
2021-22  
〔夏会期〕

2021年8月11日(水)ー9月26日(日)

※休祭日:8月18日(水)、9月1日(水)、9月15日(水)

宮城県 石巻市街地、牡鹿半島(桃浦、荻浜、小積、鮎川)、女川駅周辺

石巻市街地エリア:平日・土日祝 10:00-17:00(16:30最終受付)

その他エリア:平日 10:00-16:00(15:30最終受付)、

土日祝・8月13日~16日 10:00-17:00(16:30最終受付)

※施設、作品によって異なる場合があります

※春会期は2022年4月23日(土)ー6月5日(日)、石巻地域で開催予定



# ART

## 想像力を喚起するアート

Art evokes imagination

夏会期は新たに22組のアーティストが作品を展開します。キュレーターは窪田研二。石巻市街地と新たに会場に加わった女川駅周辺では人間社会についての作品、自然豊かな牡鹿半島では人間と自然との関係を想起させるような作品を多く見ることができるでしょう。

### 想像力を共有する場としてのフェスティバル

利他の精神は他者への想像力がなければ決して持ち得ないものです。大災害や戦争、疫病など、社会が根底から揺さぶられた時、多くの人たちは圧倒的な絶望感を抱えながらも、利他的な社会への変革を一線の見みとして抱いてきました。10年前に東北地方を襲った震災の時に、世界中の人々が利他的な精神を発揮したことや、来るべき利他的な社会のあり方について目を輝かせて話していた人々を記憶されている方も多いでしょう。しかし時の経過とともに、そうした希望や意識は徐々に忘却されていきます。なぜなら現在の利己的な社会では、他者の痛みや苦しみを忘却するか、考えないようにすることが効率的で良いとされているからです。そのような忘却や思考停止に対抗する手段として、祭り(フェスティバル)は

昔から有効でした。祭りは日常から離れて、祖先や失われた人々に想いを馳せ、現在、そして未来へとイメージを膨らませる機能を持っています。震災を契機に始まったリボンアート・フェスティバルもまた、忘却に抗いながら、今現在、そして未来の私たちの世界を想像するための祭りなのです。この祭りに参加するアーティストや鑑賞者、そしてスタッフたちもまた、多様なアート作品を通じて平和で多様性のある平等な社会や、人類と自然、生命体や非生命体との豊かな共生の実現といった未来のあり得べき世界を夢想し、それらを共有するために一時的に集い、そして祭りが終わると各々の社会へと戻っていくのです。未知の世界に対する集団的な想像力を共有すること。それこそが、祈りにも似たこのリボンアート・フェスティバルの本質なのかもしれません。そして各々が現実世界に持ち帰った「想像力」を徐々に社会へと浸透させることによって、利己的な社会から利他的な社会への変革を実現させることが可能となるのです。



Reborn-Art Festival  
2021-22  
夏会期 キュレーター  
窪田研二

### A 石巻市街地エリア Central Ishinomaki Area

石巻の中心市街地。地元の人にとってなじみ深い元銭湯やスケート場、石巻を訪れる人の多くが足を運ぶ日和山公園や石ノ森萬画館も会場に。震災後、実質的な中心部は北西の石巻河南IC付近に移りましたが、新たなアートスペースも続々と生まれ、再生が進んでいます。

#### A1 廣瀬智央 Satoshi Hirose



「Strange Loop」展示風景  
2020年  
小山登美夫ギャラリー  
Photo by Tartaruga  
Courtesy of Tomio Koyama Gallery  
© 2021 Satoshi Hirose,  
All Rights Reserved

#### A2 HouxoQue



(un/real engine)  
2019年  
Photo by  
Shu Nakagawa

#### A3 大友良英 Otomo Yoshihide



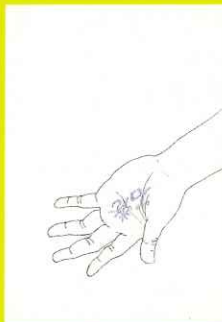
《バラ色の人生》  
2015年 / 2018年  
清山飯坂温泉芸術祭2018  
Photo by Masaaki Akama  
Courtesy of Project FUKUSHIMA!

#### A4 A8 片山真理 Mari Katayama



《ballet #002》  
2013年

#### A5 雨宮庸介 Yosuke Amemiya



《石巻13分》のためのスケッチ

#### A6 MES



「RECOVERY OLYMPICS?」  
《(サイ)のためのドローイング》  
2021年

#### A7 マユンキキ Mayunkiki



インタビュー映像  
《シンリツ》  
Film by  
Yoshiro Matsunaga

#### A9 西尾康之 Yasuyuki Nishio



《磔刑》  
2021年

#### A10 バーバラ・ヴァーグナー&ベンジャミン・デ・ブルカ Bárbara Wagner & Benjamin de Burca



《Swinguerra》  
2019年  
Courtesy of Fortes D' Aloia & Gabriel,  
São Paulo/Rio de Janeiro  
© Bárbara Wagner & Benjamin de Burca

#### A11 高橋匡太 Kyota Takahashi



出展作品イメージ  
※日没後点灯予定

## B ( 女川エリア ) Onagawa Area

新たに会場に加わった女川は、温泉施設の入った坂道設計の駅舎と、海が見えるまちづくりが特徴です。女川駅前から商店街を経て海に向かう徒歩圏内に作品が点在しています。女川湾の湾奥を利用した女川漁港は天然の良港で、釣り人の姿も見られるかもしれません。

### B1 会田誠 Makoto Aida



《考えない人》  
2012年  
Photo by Keizo Kioku  
Courtesy of Mizuma Art Gallery

### B2 オノ・ヨーコ Yoko Ono



《Wish Trees for Peace》  
1996/2008年  
Installation view, Akasaka Hikawa Shrine,  
Tokyo, Japan, 2008  
Photo by Jon Hendricks  
Courtesy of Yoko Ono

### B3 加藤翼 Tsubasa Kato



作品イメージ

## C ( 桃浦エリア ) Momonoura Area

自然豊かな牡鹿半島の最初の作品展示エリアとなる桃浦は、牡蠣の養殖が盛んな漁村。今回の会場は2018年に廃校となった旧猿浜小学校です。その校庭と防波堤付近にはこれまでのRAF作品も、RAFオフィシャル宿泊・研修施設、もものうらビレッジも近くにありま

### C1 篠田太郎 Taro Shinoda



《Lunar Reflection Transmission Technique: Performance with Uriel Barthélémi》  
Sharjah UAE  
Courtesy of Sharjah Art Foundation

### C2 サエボーグ Saeborg



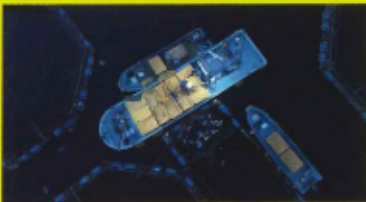
《HISS》  
2015年 築本太郎記念堂、東京  
Photo by Takeo Hibino  
Courtesy of Taro Okamoto Memorial Museum  
Cooperation in electric decoration by Kimitaka Kisaki (Yotta)

### C3 森本千絵 × WOW × 小林武史 Chie Morimoto × WOW × Takeshi Kobayashi



小林武史 × WOW × DAISY BALLOON (D-E-A-U)  
2017年  
Reborn-Art Festival 2017

### C4 岩根愛 Ai Iwane



《COHO》 2021年

### C5 SWOON



《Cicada》 2019年

### 常設されている これまでの RAF作品

過去のリボンアート・フェスティバルで発表された作品の一部はその後、地域に残っています。あわせてお楽しみください。

・増田セバスチャン《Microcosmos-Melody》(RAF2019作品/石巻市街地エリア) ※感染症拡大防止のため施設利用休止中につき6月23日現在非公開

・金氏徹平《ボイルド空想(マテリアルのユレーイ/石巻)#1.#2.#3.#4》(RAF2017作品/桃浦エリア)

・久住有生《淡(あわ)》(RAF2019作品/桃浦エリア)

・名和晃平《White Deer (Oshika)》(RAF2017作品/猿浜エリア)

・鳥袋道浩《白い道》(RAF2019作品/鮎川エリア)

・吉増剛造《room キンカザン》(RAF2019作品/鮎川エリア)

## D ( 荻浜エリア ) Oginohama Area

牡蠣の養殖場を抜けて小径を行くと、牡蠣殻で白くなったホワイトシェルビーチが現れます。RAF2017で生まれた名和晃平の《White Deer (Oshika)》や「リボンアート・ダイニング」、食堂「はまさいさい」もあるアートと食の拠点に、新しい風景と出会う場が「加わりました」。

### D1 小林万里子 Mariko Kobayashi



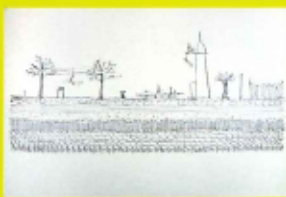
出展作品イメージ

### D3 布施琳太郎 Rintaro Fuse



《船橋式濃厚接触室》  
2020年  
Photo by Naoki Takehisa

### D4 狩野哲郎 Tetsuro Kano



新作のためのイメージスケッチ  
《木と水と灯と木(キトミトヒトキ)》  
2020年

### D2 片山真理 Mari Katayama

## E ( 小積エリア ) Kozumi Area

牡鹿半島の真ん中あたりに位置する、穏やかな海と山に囲まれた一帯。食肉解体処理施設「フェルメント」では、食肉師・小野寺望を中心に、害獣とされる鹿を地域資源として活かすべく活動。RAF2019で小積に作品を展開した志賀理江子が継続してプロジェクトを行っています。

### E1 志賀理江子 + 栗原裕介 + 佐藤貴宏 + 菊池聡太郎 Lieko Shiga + Yusuke Kurihara + Takahiro Sato + Sotaro Kikuchi



制作風景(栗原裕介)

# MUSIC

## 地域と融け合う音楽

Music fuses with community

音楽家である小林武史がプロデュースするのは、

震災から10年目の節目に生まれた楽曲をモチーフにしたインスタレーション作品や、  
オンライン配信を含めた音楽プログラム。

この時期、この場所だからこそ深めることができる、奏でることができる音世界を表現します。

会期中に音楽イベントを開催予定。 ※決まり次第、オフィシャルサイトにてご案内します

# FOOD

## 可能性を発信する食

Food expands possibility

石巻を代表する料理人が、地元の生産者、

全国の著名な料理人たちとともに、石巻の食の可能性を再発見。

料理人たちのセッションやシンポジウム、マーケットのほか、好評のフードアドベンチャー、  
ダイニング、食堂も。ユニークな食体験を提供し、持続可能な未来のヒントを発信します。

### フードディレクター

### コーディネーター



阿部司

Tsukasa  
Abe  
(割烹滝川)



阿部久利

Hisatoshi  
Abe  
(松竹)



今村正輝

Masateru  
Imamura  
(いまむら)



菊池博文

Hirofumi  
Kikuchi  
(H3 Food Design)



### セッションディナー

Session Dinner

石巻を代表する飲食店の料理人と国内の著名な料理人が、石巻・宮城の食材を使ってセッション。食材の知識や調理技術を交換し合い、新たな学びや未来へ向けた繋がりを生むとともに、お客様にこの地の食の豊かさ、料理を通じた喜びと幸せを体感していただきます。



### シンポジウム

Symposium

食をテーマにした講演や音楽プログラム、生産者も登場するディスカッションなどにより、参加者が多角的に食を感じ、考える場を創出。食するという日常的な行為から、サステナブルな未来を思い描くための知識やヒントを得られる場となります。

Supported by 木下グループ



### 夜市

Night Market

ゲストシェフたちが石巻の食材を活かし、未利用資源などの課題も組み込んだ新しいレシピを考案。集まった地元飲食店が一品料理に仕上げて屋台で提供し、川辺の夜に賑わいを生み出します。参加者は出店者との会話を楽しみながら地域の魅力を体感できます。

Supported by 木下グループ



### 石巻フードアドベンチャー

Ishinomaki Food Adventure

豊かな自然を誇り、様々な食材の宝庫でもある石巻・牡鹿半島を、地元精通した案内人とともに巡ります。参加者が自らの足で歩き、五感を開くことで、石巻の食の魅力や歴史を体験し、たくさんの発見や学びを得る、食の冒険です。



### リボーンアート・ダイニング

Reborn-Art DINING

石巻の旬の食材を使い、石巻から発信したい食材の魅力や環境の課題を盛り込んだ一皿を提供。宮城県内に留まらず東北各県や全国からゲストシェフを招き、刺激的で美味なる料理を次々と生み出し、訪れた人に驚きと喜び、そして気づきをもたらすダイニングです。



### はまさいさい

Hama-Saisai

地元の食材を中心に使った料理を提供する明るく元氣な食堂。浜を愛する人たちと共に、浜の日々の暮らしのなかで育てられた知恵を集め、この場所ならではの美味しさをお届けし、新たなにぎわいと出会いの場となることを目指しています。

# ACCESS アクセス

## 石巻へ To Ishinomaki

東京から石巻まで、電車で約2時間40分 It is only about 2.5 hours from Tokyo to Ishinomaki



電車の場合  
By train



車の場合  
By car



飛行機の場合  
By plane

仙台国際空港まで to Sendai International Aprt

- 成田国際空港 (Narita International Aprt (Chiba)) 1時間10分~ (1h10min~)
- 伊丹空港 (大阪国際空港) (Osaka International Aprt (Itami Aprt / Osaka)) 1時間10分~ (1h10min~)



## 各エリアへ To each area

石巻市街地から鮎川まで、車で約1時間 1 hour from Central Ishinomaki to Ayukawa by car

### 牡鹿半島を1日で巡る オフィシャルツアー

牡鹿半島を巡るバスツアーを運行します。朝集合し、バスに乗って移動、ガイドの話を聞きながら主な作品を鑑賞して、夕方に解散(昼食付き、リボンアート・パスポートは別料金)。オフィシャルツアーで牡鹿半島(桃浦、荻浜、小積、鮎川)を快適に巡り、徒歩と電車で石巻市街地と女川を巡れば、1泊2日でほぼすべての作品がご覧いただけます。運行日など詳細はオフィシャルサイトにご確認ください。



\*石巻市街地エリア内は徒歩でも巡れますが、自家用車もしくはレンタカーが便利です(駐車場はコインパーキングをご利用ください)。バスは便数が少ないためご注意ください。  
\*女川エリア内は徒歩で巡れます。  
\*牡鹿半島(桃浦エリア、荻浜エリア、小積エリア、鮎川エリア)へは、オフィシャルツアーを利用しない場合、自家用車もしくはレンタカーが便利です。バスは便数がかなり少ないためご注意ください。

リボンアート・フェスティバルは、宮城県の石巻を主な舞台とした、「アート」「音楽」「食」の総合芸術祭です。東日本大震災の被災地で、「Reborn-Art=人が生きる術」をキーワードに掲げ、2017年に始まりました。

東日本大震災から10年目の節目になる2021年。「地域の内側からの復興」をめざして、被災地域に新しいつながりや循環をつくる目的で始まったリボンアート・フェスティバルにとっても節目となるこの時機に、地域のみなさんやアーティストと一緒に心をこめて「Reborn-Art Festival 2021-22」を開催します。

ご存知の通り、新型コロナウイルスによる社会情勢の変化は多大なインパクトを宮城県にももたらしています。そこで、これまで2年に1回、夏に開催してきたこのお祭りを、2021年の夏と、2022年の春、2期に分けて実施することになりました。これはコロナ禍における色々な事態に柔軟に対応していきたい、という考えから。またこれまでは夏の牡鹿半島にお誘いしていましたが、春の新緑があざやかに芽吹く、道を歩くだけで元気をもらえるような、そんな美しい風景にお誘いたい、という思いからでもあります。

ウイルスという目に見えない脅威に対峙し、前例の無いなかのように歩みを進めるべきなのか。感染拡大防止のために必要な様々な制約がありますが、同じく自然の猛威である震災からの10年で生まれた地域のしなやかさや知恵をかしながら“ネガティブ”のなかに必ずある“ポジティブ”を見つけていくという、私たちの根底にあるテーマを改めて確認していくプロセスになっていると感じています。

そして、2021年のテーマは「利他と流動性」です。震災より10年経ち、私たちはまた新しい自然の猛威を目の当たりにしています。周りを思いやる心や、流動性のあるなかで新しい日常や本質を形づくっていく想像力や関係性。地域の皆さんと一緒に向き合ってきたことを改めて振り返りながら、アーティストと一緒に表現、提案できる機会になればと思います。



## 作品鑑賞に必須の「リボンアート・パスポート」 お得な前売り券を販売中

石巻市街地、牡鹿半島、女川駅周辺の各エリアに点在するアート作品を鑑賞するには、屋内外問わず「リボンアート・パスポート」と「本人確認書類」でのチェックインが必要です。パスポートがあれば会期中、何回でもアート作品の鑑賞が可能。8月10日まではお得な前売り券を販売中です。購入方法や使用方法など詳細は公式サイトをご覧ください。

	前売り	当日
一般	3,000円	3,500円
高・専・大学生	2,500円	3,000円
宮城県民	2,000円	

パスポートの  
購入はこちらから



## 生きる術を学び、楽しむ「もののうらビレッジ」 宿泊や体験プログラムの予約受付中

山と海に囲まれた牡鹿半島の桃浦集落にある「もののうらビレッジ」は、リボンアート・フェスティバルのオフィシャル宿泊・研修施設。釣りや薪割りなど、人が本来持っている力やかつて人々が実践してきた暮らしの知恵を学び実践するプログラムも用意しています。キッチン、バス、トイレを備えたメインハウスのほか、周辺の杉林からきた建材を使ったタイニーハウス、テントサイトも利用できます。



詳しくは  
こちらから



掲載内容は6月23日時点の情報です。変更となる可能性があります。  
お問い合わせ: info@reborn-art-fes.jp

詳細は公式ウェブサイトにて  
ご確認ください

Please check the official website for  
more details and English information.

www.reborn-art-fes.jp/



主催: Reborn-Art Festival 実行委員会、一般社団法人APバンク

共催: 宮城県、石巻市、塩竈市、東松島市、松島町、女川町、株式会社河北新報社、東日本旅客鉄道株式会社 仙台支社

助成: 令和3年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

特別協賛: **木下グループ** 協賛: **環境STATION** **HITACHI**

後援: TBC東北放送、OX仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送、エフエム仙台